

[循環器内科]

[研修の目標]

循環器疾患の基本的な診断能力を習得する。

救急疾患を中心とした primary care の能力を習得する。

主たる循環器疾患の入院管理を含めた治療法について習熟する。

循環器疾患の診療を通じて、インフォームドコンセントの意義とチーム医療の重要性について理解する。

[研修指導者]

武藤 真広(循環器センター長、循環器内科部長、救命救急センター副センター長)

日本循環器学会専門医、浜松医科大学臨床教授、日本内科学会認定内科医、臨床研修指導医、不整脈専門医、日本高血圧学会専門医

澤崎 浩平(循環器内科医長)

日本循環器学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、不整脈専門医、日本脈管学会専門医

[研修コース]

当院内科ローテーションの一環として行う。

[研修指導体制]

指導医とともに入院患者を受け持ち、入院から退院まで指導医と討議しながら一貫してその診療にあたることで総合的な知識と技術の修得を図る。CCUに緊急入院があった場合は原則的に必ず first touch に参加するようにし、可能な限り多く循環器疾患の緊急処置が経験できるよう配慮する。その他に週間行事として、月曜日：入院患者カンファレンス、冠動脈造影・intervention 症例検討会、金曜日：morning 抄読会があり、これらを通じて知識を研磨するとともに発表と討論の技能を鍛錬する。豊富で多彩な症例数は当科の特色のひとつであり、自ら積極的に診療に参加することで短期間であっても成果のある研修をしていただきたい。

[研修内容および到達目標]

- 1) 多角的な病歴の聴取が出来、正確な聴診と系統的な理学的検査が出来る。
- 2) 科学的な clinical record の記載が出来る。
- 3) 虚血性疾患、不整脈の心電図診断が出来る。
- 4) Doppler を含めた心臓超音波検査による心機能評価が出来る。
- 5) 胸部X-P、CT、MRIによる主たる疾患の画像診断が出来る。

- 6) 一般的な循環器薬の薬理作用を理解し、それらの経口投与による虚血性心疾患、慢性心不全、本態性高血圧、不整脈の治療が出来る。
- 7) 緊急時に電氣的除細動、気管内挿管、中心静脈確保、C P Rを確実に遂行することが出来る。
- 8) 動脈血 gas 分析に基づいた人工呼吸器による呼吸管理が出来る。
- 9) 人工呼吸器、IABP、経静脈短期 pacing、透析による侵襲的補助治療の適応が判断できる。
- 10) 急性心筋梗塞の急性期対応が出来る。
- 11) 急性左心不全の急性期対応が出来る。
- 12) 患者本人と家族に対し病態と治療方針につき適切に説明することが出来る。
- 13) Team 医療における自分の役割を理解し責任のある行動が取れる。